



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 262

2018/10/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

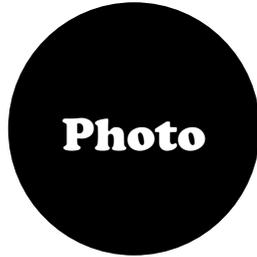
GREEN COLUMN

01. 白い花み〜つけた

02. ムツアカネ



今月の一枚



「白い烏帽子」

表紙写真・文／城坂結実

エゾトリカブトは、美幌町の平地で普通に見られる紫色の花です。ある日、美幌町にお住いのKさんが「せせらぎ公園に白いエゾトリカブトが咲いていた」と教えてくださいました。早速出かけてみると、暗い森の中で、白く目立つエゾトリカブトを発見。

トリカブト（烏兜）の名前の由来は、古来の衣装の一つである烏帽子に似ているからだという説も。白い烏帽子は、とてもきれいでした。

Event. 今月のイベント

特別展「アイヌ文化に生きる植物」 ～10月21日(日)

美幌博物館開館記念日(無料開館) 10月7日(日)

特別展関連講座「ヤナギの葉で魚を作ろう」 10月7日(日)

プチ工房「ハロウィンキャンドル」 10月10日(水), 12日(金)

博物館講座(歴史編)「最古の家畜、イヌと人の関係史」 10月13日(土)

博物館講座(歴史編)「歩いて発見! ぶら博物館」 10月28日(日)

Information. 参加者募集

美幌博物館開館記念日

●10/7(日)【もちつき体験】10:00-12:00【モノ作り体験】オバケが飛び出る! ハロウィンバスボム
10:00-13:00 ●美幌博物館 ●無料(常設展示室も無料でご覧いただけます) ●美幌博物館スタッフ ●
申込み不要。

特別展関連講座「ヤナギの葉で魚を作ろう」

●10/7(日) 10:00-11:30 ●美幌町図書館 2F 視聴覚室 ●無料 ●城坂結実(美幌博物館) ●美幌博物館へ
電話申し込み(10/2-10/6)。定員20名で締切。

プチ工房「ハロウィンキャンドル」

●10/10(水), 12(金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了。 ●美幌博物館 1F 講
座室 ●材料費(1枚300円, お一人様2個まで) ●城坂結実(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3
年生以下は保護者の同伴が必要。

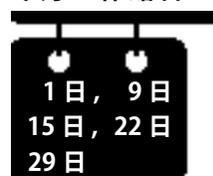
博物館講座(歴史編)「最古の家畜、イヌと人の関係史」

【講演会】 ●10/13(土) 10:00-12:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●植月学氏(弘前大学) ●申込み不要。
対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学3年生以下は保護者の同伴が必要, 定員50
名で締切。

博物館講座(歴史編)「歩いて発見! ぶら博物館」

【体験会】 ●10/28(日) 9:30-11:30 ●美幌町市街地(集合解散は美幌博物館) ●保険料(100円), 野
外で活動できる服装(長そで, 長ズボン, 帽子), 飲み物, 雨天時は雨具, 長靴 ●八重柏誠(美幌博物館)
●美幌博物館へ電話申し込み(10/2-10/24)。キャンセルは10/24まで。それ以降は保険料100円が
かかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学3年生以下は保護者の同伴が必要,
定員25名で締切。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム



白い花 み〜つけた

写真・文／城坂結実



みなさんは、白い花を目にしたことはありますか？それも、普通なら紫色や青色、ピンク色といった色がつくはずの種類にも関わらず、白色の花を咲かせるもの。エゾエンゴサクの白花（写真）は、美幌町でも時々見かけます。他にも、今月の一枚のエゾトリカブトやツユクサで、白色の花を見かけたという話を聞きます。先日は、大雪山系の登山道で、前を歩いていた方が「めずらしいね、イワギキョウの白花だよ。」とわざわざ教えてくださいました。白花には、他の人に教えたいくなるような、なんだか特別な力があるのでしょうか。

そもそも花の色は、フラボノイド系色素、カロチノイド系色素、クロロフィル系色素など、花びらに含まれる様々な色素によって発現しています。私たちが目にしている複雑な花の色は、一つの色素だけだったり、いくつかの色

素が組み合わさったりして、できあがるそうです。

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構のホームページによると、赤～紫～青色に関わる色素のアントシアニンは、その合成に関わる遺伝子に変異しやすいので、白花になる突然変異がしばしば見られるそうです。

白花は遺伝子の突然変異によるものなので、多年草の場合、毎年白花を見ることができます。エゾエンゴサクの白花は、美富自然公園で見ることができますので、来春、ぜひ探してみてください。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム



ムツアカネ

写真・文／鬼丸和幸



先日の北海道胆振東部地震では、美幌町内でも停電被害に見舞われ、復旧までにはしばらく時間を要しました。地震の被害を受けるなど、全く想定していなかったこともあり、バタバタした数日間でした。

停電になった日、博物館冷凍庫に電気を送るために、裏玄関横で発電機を作動させていた時、偶然にも発電機横の地面に、小さな黄色のトンボがとまりました。体長3cmほどのかわいいトンボです。採集して調べてみると、ムツアカネでした。

ムツアカネは、国内では北海道と本州の山岳地域でのみ見られます。樹林に囲まれた池沼や、高層湿原のような場所で生活しています。和名にある“ムツ”は、青森県むつ市で見つかったことに由来しています。美幌町内では、古梅地区の林道や駒生地区の湿地周辺で見つっていますが、決して多

くはありません。胸の黒い斑紋の形状や、メスだと顔を正面から見た時に、複眼の下に鼻ヒゲのような斑紋があるのが特徴です。

トンボの仲間は、卵、幼虫（ヤゴ）、あるいは成虫の姿で冬を越します。秋によく見られる、いわゆる“赤トンボ”は、産卵後、まもなく冬になることもあり、卵の状態です。ムツアカネも、卵の状態です。春、水が温かくなると、ふ化して、7月末頃より成虫が現れ始めます。

これから、赤や黄の色鮮やかなトンボが舞う季節となります。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・久保田結衣

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....

「部屋の中に虫がわいてきた！」と4月から一人暮らしを始めた娘からの電話。「バカじゃない！何やっているの、女の子でしょう！」と激怒した虫が大嫌いのカミさん。…私がベランダに置いた小さな植木鉢で、密かにダンゴムシを飼っていることは、極秘事項としています。(鬼丸)